

「縁辺海の自然科学的な機能と人間活動への役割」

低温研萌芽研究シンポジウム

日時：平成 25 年 12 月 5 日（木）13:00 ～ 6 日（金）15:00

場所：北海道大学低温科学研究所 3F 講堂

本萌芽研究では、縁辺海（陸域—外洋のインタラクションも含む）の海洋循環・物質循環の観点における科学的な特徴や、水産業や油田開発、人為起源汚染の影響など人間活動の場としての縁辺海の抱える役割と問題点等を抽出することを目指す。本シンポジウムでは各縁辺海研究者コミュニティ間の情報交換を実施し、実際に研究を実施していく上での問題点、各縁辺海研究の共通性・相違性、（陸と大洋を繋ぐ）縁辺海的重要性などを議論する。

12 月 5 日（木）（1 日目）

13:00-13:05 北大低温科学研究所 所長挨拶

13:05-13:15 趣旨説明 西岡 純（北大低温研）

★セッション 1：日本海・東シナ海・ベーリング海・オホーツク海 I（座長 中村知裕）

13:15-13:40 東アジアの環境変化が日本海に及ぼす応答性—金沢大学環日本海域環境研究センターの取り組み—

○長尾誠也（金沢大学 環日本海域環境研究センター）

13:40-14:05 東シナ海の窒素・リン循環研究

○梅澤 有・山口聖・野崎龍（長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科）

14:05-14:30 日本海の観測から評価できた溶存有機物動態

田中和樹（北大環境科学院）・久万健志（北大水産）・浜崎恒二（東大大気海洋研）・永田俊（東大大気海洋研）・○山下洋平（北大地球環境）

14:30-14:55 堆積物から復元する過去 1000 万年間の日本海海洋環境変動

○入野智久（北大地球環境）

14:55-15:15 休憩

★セッション 2：日本海・東シナ海・ベーリング海・オホーツク海 II（座長 的場澄人）

15:15-15:40 巡視船そうやを用いたオホーツク海海氷観測の取り組み

○豊田威信（北大低温研）

- 15:40-16:05 網走地域のエアロゾル中の鉄の経年変動
○江島達郎 (東京農業大学 生物産業学研究科アクアバイオ学専攻)
- 16:05-16:30 オホーツク海における人間活動起源炭素・窒素の動態
○渡邊 豊 (北大地球環境)、重光雅仁 (北大地球環境)、西岡純 (北大低温研)
- ★セッション3：陸—海インタラクション (座長 三寺史夫)
- 16:30-16:55 親潮海域における大気ダスト由来の鉄の役割
○的場澄人 (北大低温研)
- 16:55-17:20 河川出水による鶴川沿岸の水域環境の変化について
○大橋正臣・河合 浩・水垣 滋・阿部島直哉・三上信雄
(独) 土木研究所 寒地土木研究所)
- 17:20-17:45 亜寒帯汽水湖：風蓮湖の低次生物生産環境の変遷—土地利用形態の変化が与えたインパクトの評価—
○門谷 茂 (北大水産科学研究科)

懇親会

12月6日(金)(2日目)

- ★セッション3：陸—海インタラクション (座長 長尾誠也)
- 9:00-9:25 アムール・オホーツクプロジェクト 2005-2009 の概要・成果・今後の課題
○白岩孝行 (北大低温研)
- 9:25-9:50 アラスカユーコン河の土砂流出とベーリング海への移流拡散
○知北和久 (北大院理学院)
- 9:50-10:15 オホーツク海北海道沿岸宗谷暖流域のリモートセンシング
○朝隈康司 (東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科)
- 10:15-10:40 大陸規模の河川における溶存有機物と鉄の挙動をモデル化する—アムール川の事例—
○大西健夫 (岐阜大学 応用生物科学部)
- 10:40-10:55 休憩

- 10:55-11:20 オホーツク海に供給される陸起源粒状有機物の起源
○関 宰 (北大低温研)・三上裕 (北大環境院)・長尾誠也 (金沢大環日本研),
James Bendle (バーミンガム大)・Kim V. I. (水生生態研)・Shesterkin V. P.
(水生生態研)・Makinov A. N. (水生生態研)・福嶋正己 (北大工学部)
- ★セッション4: 日本周辺 (縁辺海を繋ぐ) (座長 関 宰)
- 11:20-11:45 我が国の魚類生産を支える黒潮生態系の変動機構の解明 (The Study of Kuroshio
Ecosystem Dynamics for Sustainable Fisheries: SKED)
齊藤宏明 (水産総合研究センター)・○鈴木光次 (北大院地球環境)・
SKED プロジェクトメンバー
- 11:45-12:10 高解像海洋モデルを用いた縁辺海をつなぐ北太平洋のジェットの構造および水塊移動
の研究
○中野英之 (気象庁気象研究所 海洋・地球化学研究部)
- 12:10-13:00 昼休み (お弁当を用意)
- 13:00-13:25 北海道周辺の水産資源からみた縁辺海の海洋物理的問題と役割
○黒田 寛 (北海道区水産研究所)
- 13:25-13:50 日本沿岸海況監視予測システムに向けた高解像度日本沿岸モデルの開発
○坂本 圭・山中吾郎・辻野博之・中野英之・平原幹俊
(気象研究所 海洋・地球化学研究部)
- 13:50-14:10 北海道網走沖におけるサイズ別クロロフィル a 濃度と基礎生産力のモニタリング
○塩本明弘 (東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科)
- 14:10-14:30 ベーリング海からオホーツク海に連なる塩分輸送の経路と DSW への影響
○松田淳二・三寺史夫・若土正暁 (北大低温研)
- 14:30-14:55 総合討論 (座長 西岡 純・白岩孝行)
- 14:55-15:00 江淵直人 環オホーツク観測研究センター センター長 挨拶